

令和6年度秋期 応用情報技術者試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT人材教育研究部 2024,12,26

10月13日(日)に行われた令和6年度秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、応用情報技術者試験の分析コメントをお知らせします。

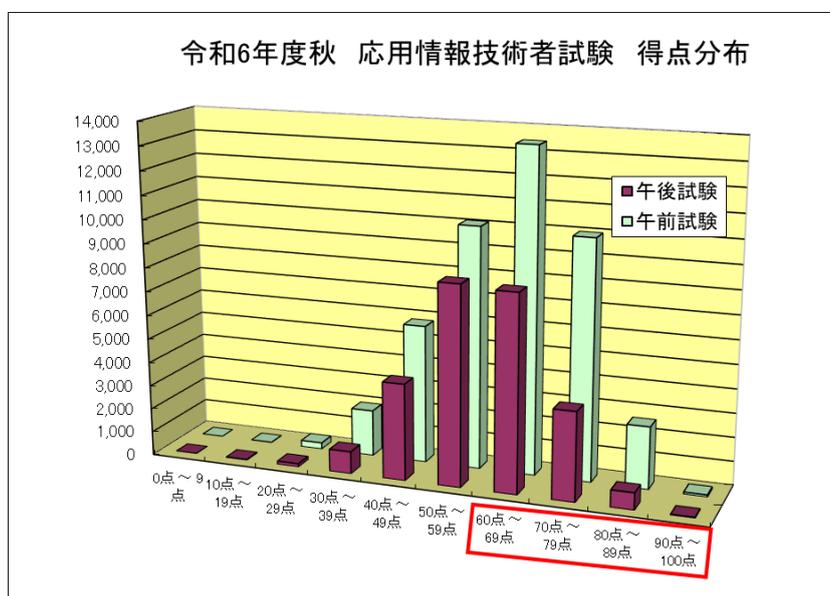
■ 応用情報技術者試験 (A P)

[令和6年度秋期 応用情報技術者試験 統計情報]

応募者	65,667人
受験者	44,243人
合格者	12,613人
合格率	28.5%

今回令和6年度秋期の応用情報技術者試験の合格率は28.5%で、いまの試験制度になった平成21年以降最高でした。前回令和6年度春期の23.6%と比べてもかなり上がりました。発表された得点分布の分析とグラフを示します。

得点	午前試験	午後試験	合格者
0点～9点	2	4	
10点～19点	11	26	
20点～29点	264	132	
30点～39点	1,945	930	
40点～49点	5,798	4,037	
50点～59点	10,098	8,306	
60点～69点	13,453	8,177	
70点～79点	9,984	3,697	
80点～89点	2,605	709	
90点～100点	83	30	
計	44,243	26,048	12,613
対前試験比率		58.9%	48.4%
合格者数	12,613	採点者数の割合	合格者数との差
午前60点以上合計	26,125	59.0%	13,512
午後60点以上合計	12,613	48.4%	0



今回の令和 6 年度秋期の午前試験では合格基準点の 60 点以上の人が 26,125 人で受験者の 59.0%でした。前回の令和 6 年度春期試験の 50.8%から約 8%も上がりましたが、過去の応用情報技術者試験の過去問題でよく出題される内容が多く解きやすかったことが理由と思われます。

午後試験で合格基準点の 60 点以上を超えている人（合格者）は 12,613 人で、午後試験採点者数の 48.4%にあたり、前回試験の 46.7%から少し増えています。出題された問題は例年よりも少し易しい基本的な問題が多かったといえ、難易度が関係した結果と思われます。

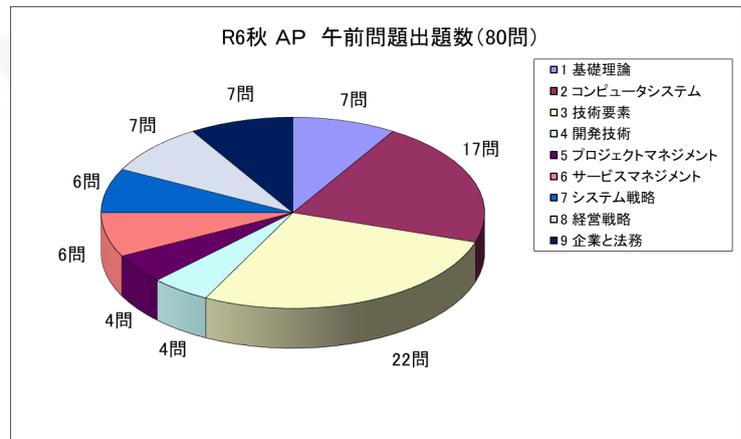
ボーダラインといえる得点結果の人について、午前試験で 50 点以上 60 点未満の人が 10,098 人（受験者の 22.8%）、午後試験で 50 点以上 60 点未満の人が 8,306 人（同 31.9%）と、どちらもかなり多くの人、合格まであと 10 点という得点ゾーンにいます。このゾーンの方は、合格点まで“あと一步”のところにいるので、苦手と感じる分野を中心に、早めに次の試験対策を始めてください。また、試験直前の総復習も重要です。

■令和 6 年度秋期 応用情報技術者試験の出題内容

〔午前問題〕 80 問出題／80 問解答，150 分

午前試験問題の出題形式について、前回よりも文章問題と計算問題が増え、用語問題と考察問題は減っています。新傾向問題は 16 問で、前回 15 問から大きく変わっていません。

過去問題の再出題が全体の約 7 割弱ありましたが、応用情報の過去問題再出題は 25 問で前回の 31 問から 6 問減りました。この他、基本情報の過去問題は 8 問（前回 7 問）、高度午前Ⅱ試験の過去問題の出題が 19 問（前回 13 問）と 6 問増えましたが、応用情報の過去問題で解きやすい内容が多かったことから、午前試験全体としては、前回よりも解きやすかったと思われます。



〔午後問題〕 11 問出題／5 問解答（1 問は必須），150 分

今回の午後試験問題は、問 1（必須）の情報セキュリティが「Web サイトのセキュリティ」という技術系主体の問題で難易度は普通でした。問 2 以降の選択問題は毎回 2～3 問難しいといえる問題がありますが、今回は問 6 のデータベースと問 7 の組込みシステム開発がやや難しい内容でした。しかし、午後試験全体としては、前回よりも解きやすい問題が多かったといえます。

午後の試験対策としては、各問題の出題テーマに関連する午前試験で出題される知識を確実に理解し、問題事例に知識を適用できるようになるまで、しっかり演習を行う必要があります。なお、令和 5 年度から実施されている新しい基本情報技術者試験の科目 B（旧午後）試験はアルゴリズムとセキュリティ問題だけで、応用情報技術者の午後試験と出題内容や形式が大きく異なります。また、応用情報では問題の難易度がかなり上がるため、基本情報技術者試験に合格し、すぐに応用情報技術者試験を受ける場合には、しっかり学習時間をかけて知識を深め、事例問題の中で知識が生かせるように、午後試験対策を確実にを行う必要があります。